

前橋天神山古墳と 鏡の謎

～清水和夫氏の卒業論文より～

スライド4からスライド19は1968年に清水和夫氏が卒論として群馬大学教育学部に提出したものをまとめたものである。表記もそのままとしているため、当時の一研究者の分類見解として理解していただきたい。



今と異なる鏡

今

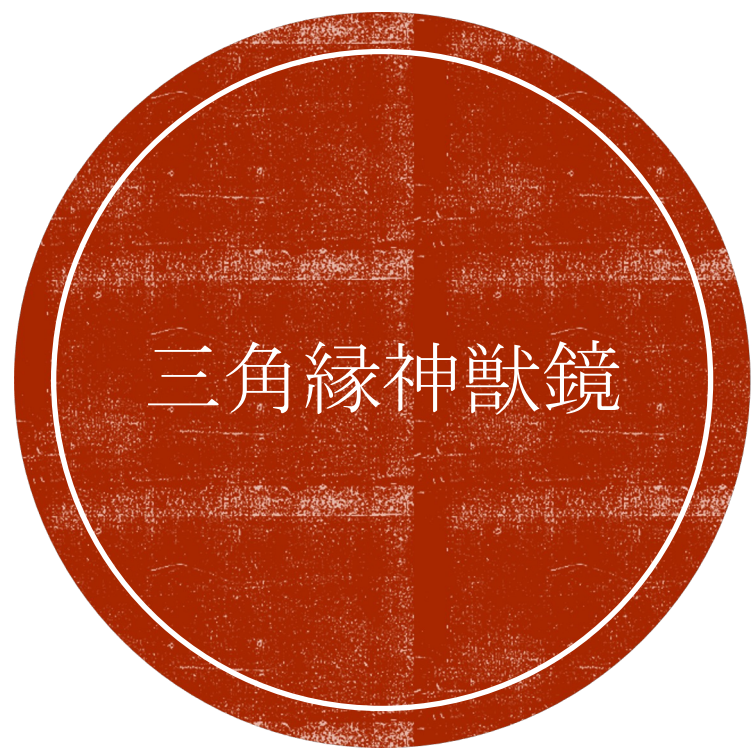
- ・素材→ガラスに金属のメッキ
- ・用途→身だしなみを整える
自身の姿を見る

昔

- ・素材→青銅
- ・用途→魔除け まじない 祭りの道具
豪族の権力の誇示
大和政権による権威の象徴
- ・模様→裏面に凹凸

鏡＝神聖なもの 不思議なもの
権力





- ・中国の神様である神仙と霊獣が交互に配置

- ・神の数と霊獣の数によって呼び方が変わる

- ・乳（半球や円錐状の突起）が隣接する神像・獣形の境界線上に配置

- ・魏の年号が記された銘文があるものもある

- ・同じ鋳型を使った同范鏡・同型鏡が日本国内に多く存在

- ・卑弥呼が魏から受け取ったもの？



前橋天神山古
墳から出土し
た鏡

- ・ 二禽二獣鏡 1枚
- ・ 半円方格帯画像鏡 1枚
- ・ 変形獣形鏡 1枚
- ・ 三角縁四神四獣鏡 1枚
- ・ 三角縁五神四獣鏡 1枚



出土した二禽二獣鏡

・ 直径：18.5 cm

・ 出土時に緑青はほとんど見られず赤銅色を呈していた

・ 非常に薄い鏡面で精良な地金質によってつくられたと推察

・ 「尚 方 作 鏡 大 無 傷 巧 工 刻 之 成
文 章 和 以 銀 錫」

「青 且 明 長 保 二 親 兮」（現代漢字に修正）の銘記

・ 円座鈕の文様のある円座は非常に特異でこの二禽二獣鏡は本邦最初の発見といえる

・ 舶載（中国で作られ日本に持ち込まれたもの）の後漢鏡で類似鏡や関係鏡は発見当時は未発見





出土した半円方格帯画像鏡

・ 直径：16.3 cm

・ 出土時に鏡背面に粉末状の緑青が生じていたが、掃うと黒く美しい光沢が見られた

・ 「君 宜 高 官 長 宜 子 孫 位」

「至 三 公 兮」（現代漢字に修正）と銘記されていた

・ 地金質は非常に精良で鑄くずれもほとんどなかった

・ 文様構成は非常に精密で銘帯間隔は等間隔ですぐれた企画構成法が潜んでいると思われる

・ 舶載鏡でこの形式の鏡は日本では発見当時は2面のみで他は中国本土に類似が見られるのみ



鏡の種類	出土場所	直径(cm)	特徴	考察
獣列神獣鏡	西安東邦韓森塞	17.4	円鈕 動物紋緑	上段は類似 中段と下段は神像の向きが逆
獣列神獣鏡	乾具六具	14.8	円鈕 動物紋緑	極似 直径と銘帯などが異なる
獣列神獣鏡	西安東郊	16.5	円鈕 動物紋緑	神像の向き同じ 配置異なる
天王日月対列式九神一禽鏡	東漢末二一國間作、457号漢墓	14..8	素円鈕	外区類似 神像の向き異なる
獣列神獣鏡	不明	14.4	円座鈕 外区獣文平緑	銘「君官高宜位至三公生如山石」
獣列神獣鏡	不明	17.4	円座鈕 外区獣文平緑 鋸丈あり	中間区神像が鈕に頭を向けている
獣列神獣鏡		11.69		

中国で発見された 半円方格帯画像鏡

- ・ 舶載、後漢鏡
- ・ 類似鏡は以下の通り
- ・ 出土鏡のうち、初めの4つはすべて中国本土からの出土でおもに西安付近に分布



出土した変形獣形鏡

- ・ 直径：13.2 cm

- ・ 粉末状の緑青はあったが変色はほとんど見られず黒みがかった光沢を放っている良質の白銅鏡

- ・ 出土時の状況から舶載鏡であると推測される一方で、仿製（日本で作られたもの）鏡とされる小型捩文鏡に文様、大きさが類似している点から仿製鏡の可能性も否定できず断定には多くの検討を要する





変形獣形鏡に関する考察 1

- ・ 一種の捩文鏡である
- ・ 捩文鏡とは一般に小型の仿製鏡の一種
- ・ 鋳上がり、地金質はともに良好であるが、捩文の原形が獣形であることから仿製鏡と考えられる
- ・ 埋葬時に三角縁四神四獣鏡とは副葬意識を別にした配置状態であり、捩文は12 cmを超えることがほとんどない
- ・ 後漢鏡、魏晉鏡などの中国鏡と一緒に出土する例が極めてまれである
- ・ 出土が特異であるため仿製鏡と断定するには若干の疑問を残す

変形獣形鏡に関する考察 2

- ・類似品には左の3つがあげられる

- ・静岡の出土品に関しては前橋天神山古墳から出土したものよりも小さい

- ・福島出土品に関しては規模、文様に類似は見られないが文様形式から仿製鏡と考えられる



出土場所		直径(cm)
静岡県磐田市新見古墳	松林	12
福島県会津若松市山古墳	大塚南棺	9.5
福島県会津若松市山古墳	大塚北棺	10.3



出土した三角縁四神四 獣鏡

- ・ 直径：21.7 cm
- ・ 鏡の四分の一ほどにぶい乳白色の光沢を放つ白銅質の地金が露出
- ・ 緑青以外の損傷はなく非常によい状態
- ・ 「日 月 天 王」の銘記
- ・ 鑄上りは五神四獣鏡よりもやや鈍い
- ・ 舶載鏡である





出土した三角縁五神四獣鏡

- ・ 直径：22.5 cm

- ・ 出土した三角縁五神四獣鏡は同型の鏡の出土例がなく、鑄上り、銘文などから舶載鏡であると考えられている

- ・ 「天王」「日月」の銘記があった

- ・ 地金の乳白色が呈している



三角縁神獣鏡に関する考察 1

	出土場所	出土品
(1)	藤岡市 三本木古墳	神人馬車鏡 三神五獣鏡 四神四獣鏡
(2)	高崎市 柴崎古墳	正始元年のある神獣鏡 三 神三獣鏡
(3)	富岡市 南後箇茶臼 山古墳	竜虎画像鏡 舶載鏡
(4)	太田市 牛沢頼母子 古墳	方作四神四獣鏡 舶載鏡
(5)	佐波郡玉村町 川井 芝根7号古墳	四神四獣鏡 銘君官高宜の 舶載鏡

・東北で一枚の仿製三角縁三神三獣鏡が発見されたがそれを除けば群馬が最北端

・出土した三角縁神獣鏡はどちらも舶載鏡であり、同范、同型鏡は発見されていない

・群馬県で出土した舶載三角縁鏡は左の表の通りであるが、芝根7号古墳を除いて学術調査が十分でなく鏡以外の出土遺物等に関する検討はなされていない



三角縁神獣鏡に関する考察 2

- ・ (1)～(5)までが
県内における初期
古墳であると考え
られる

- ・ (1)～(3)につい
ては京都府大塚山
古墳において同范
鏡を分有している

- ・ 前述より畿内勢
力との関係が示唆
されていると推察
できる



三角縁鏡の分類 1

・ 三角縁鏡を出土し、前期古墳として一般に分類されているものの中で、鏡種の埋納組み合わせによって細分類される

・ 第(1)分類は最も古い古墳で前 I 期に比定される。鏡種は舶載鏡のみである

・ 第(2)分類は前 I 期後半から出現し、碧玉製腕飾類を伴出するような前 II 期に盛行。鏡は舶載鏡と仿製鏡との配合された副葬を示す

・ 第(3)分類に入る古墳は仿製鏡と伴に滑石製模造品を伴う。時代の降下にともないその量も増す。



三角縁鏡の分類 2 第（1）分類

・ (1)～(5)のいずれも漢中期、後漢の鏡と魏晉鏡といわれる三角縁鏡との組み合わせ

・ 竪穴式石室を中心とする埋葬主体内部における配置にも特色を示す

・ 椿井大塚山古墳の鏡は遺体を取り囲むように配置されており呪術的・神宝性は鏡に対する神宝性が色濃く表現されている

	出土場所
(1)	京都府相楽郡山城町椿井大塚山古墳
(2)	岡山県湯迫車塚古墳
(3)	福岡県京都郡苅田町南原石塚古墳
(4)	奈良県桜井市茶臼山古墳
(5)	兵庫県揖保郡香島村吉島古墳

	出土場所
(1)	大阪府茨木市宿久庄紫金山古墳
(2)	奈良県北葛城郡河合村佐味田古墳
(3)	大阪府和泉市上代町黄金塚古墳
(4)	福島県糸島郡二丈村田中銚子塚古墳
(5)	岡山県岡山市沢田町金蔵山古墳
(6)	奈良県岡天理市櫟木東大寺古墳
(7)	福島県会津若松市一箕町会津大塚古墳

三角縁鏡の分類 3 第(2)分類

・いずれも4世紀中葉から4世紀末までの築成と考えられる



三角縁鏡の分類 4 第（3）分類

・これらは前Ⅱ期末葉から前Ⅲ期までの古墳で年代上では四世紀末葉から五世紀前半期に編年される

(1)	三重県上野市才良町石山古墳
(2)	群馬県藤岡市白石稻荷山古墳
(3)	茨城県東茨城郡大洗町磯浜白ヶ塚鏡古墳



天神山古墳の出土鏡の考察

01

2枚が後漢鏡、魏晉鏡といわれる三角縁四神四獣鏡1枚と三角縁五神四獣鏡を伴出し、4面が舶載鏡である

02

後漢鏡と三角縁鏡が左右に別々に配置され、両種の鏡に何かしらの意識が混ぜられているような配列形式をとる

03

前I期の竪穴式石室への埋納形式との類似がみられ、鏡に対する呪術的神宝性が現れている

04

02、03から分類上は第(2)分類に属するが前I期的要素を持つ



- ・ 中国や朝鮮半島からの出土はない
- ・ 上手な作品と下手な作品が明確に存在
- ・ 卑弥呼がもらったとされる 1 0 0 枚を大きく超える 5 0 0 枚以上が日本で出土

三角縁神獣鏡の謎



1

・昔の鏡は今と異なる
使用用途だった

2

・鏡には多くの種類が
ある

3

・三角縁神獣鏡は卑弥
呼とつながりがあり、
後の大和政権とのつな
がりを示す可能性

4

・三角縁神獣鏡にはい
まだに多くの謎が残る

5

・群馬では東日本では
最多の三角縁神獣鏡の
出土数を誇る

まとめ



参考文献

群馬大学教育学部昭和43年提出卒業論文 東国における初期古墳研究～前橋天神山古墳を中心として～ 昭和44（1969）年3月31日 群馬大学教育学部 清水和夫著

e国宝 国立文化財機構所蔵 国宝・重要文化財 [e国宝 - 三角縁四神四獣鏡 \(nich.go.jp\)](#) [e国宝 - 三角縁五神四獣鏡 \(nich.go.jp\)](#)

紡ぐTSUMUGU:JAPAN Art&Culture 【大人の教養・日本美術の時間】 古代の鏡は、素材も用途も今と違う！文化庁・宮内庁・読売新聞監修 鮫島圭代著 [【大人の教養・日本美術の時間】 古代の鏡は、素材も用途も今と違う！ | 紡ぐプロジェクト \(yomiuri.co.jp\)](#)

京都国立博物館 三角縁神獣鏡の謎 考古室 宮川禎一著

